1　はじめに

１　はじめに

我々は、まだ誰も体験したことのない少子高齢社会をどのように生きていくのか、という問いに直面させられている。この問いに答えるには、人類の英知を集め、未知へ挑戦する志がなくてはならないだろう。

情報技術の発達は、人間の生活全般に関わり、生活のあり方を変容させるものであり、少子高齢社会における生き方のひとつの可能性を指し示してくれるものである。

e-ケアタウンプロジェクト（以下、本プロジェクト）は、最新の IT 技術が、あらゆる年齢の人々の健康を支え、地域社会づくりを含めた、人々のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上に貢献できることを明らかにする、というねらいをもっている。

今回の実証実験では、IPv6（Internet Protocol Version 6）の技術を活用し、健康を維持していきたい人、健康に不安がある人、自宅で看護や介護を受けている人とその家族が、その人らしく安心して生活していくことができる看護と介護がゆきわたる町づくりをめざすものである。すなわち、IPv6 インターネットに接続された機器から人々の活動や運動に関する情報を取得し、それを基に専門家がアドバイスを行い、研究拠点であるｅ-ケア・スタジオから生活や介護に関わる情報をインターネットで配信し、プライバシーを守りかつ安全に情報を共有するためのシステムを開発し、人々の健康的な生活を支えるサービスを構築していこうとするものである。

本報告では、この実証実験に至った経緯、背景、その目的および基盤技術に触れ、実験の概要を述べたのち、本年度（平成 14 年度）に行った作業、実験内容と成果ならびに考察を示すとともに、それらを総括し、今後の展望について述べる。